

コリント人への手紙第一 6 章 12-20 節「自分のからだで神の栄光を現わせ」

小池 宏明 師

パウロは、再びコリントの教会で横行していた「淫らな行い」すなわち、性的不品行の問題を取り上げている。それは、淫らな行いを正当化するキリスト者がいたからだ。正当化の根拠は、当時流行っていた霊肉二元論にある。これは、霊は善、肉は悪、とはっきりと区別を付ける思想であり、禁欲的になるか、肉欲的になるか、極端に分かれていくことになる。そして多くの場合は肉欲的になる。肉欲のままに、食欲や性欲などを求めて生きても、霊的な魂や心には何の影響も与えないとする考えだ。それゆえ、性欲を満たすために結婚制度を破壊して、欲望のままに結婚前に肉体関係を持ったり、不倫をしたりするのだ。

*心も体もキリストのために

それに対して、パウロは以下のように反論している。①欲望のままに生きれば、返って不自由になってしまう。(12 節) ②霊と肉とは分離できない一つのからだ(人格)である。(主イエス様は肉体を復活させる御力があるから) ③キリスト者のからだ(人格)は淫らな行いのためにあるのではなく、主なる神イエス・キリストのために与えられている。(13 節)

*代価を払って買い取られた私たち

パウロは、何度でも、救い出された恵みを噛みしめながら生きるように勧めている。19、20 節「あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。…」主イエス・キリストが、自らのいのちを犠牲にして、私たちの罪の身代わりに死ぬことで、私たちを買い取って下さったので、私たちキリスト者は身も心もキリストのものになっている。それゆえ、自分のからだ(人格)をもって神の栄光を現わすよう勧めるのである。(20 節) 11 節でもパウロは救い出された恵みを伝えていた。「…しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によって、あなたがたは洗われ、聖なる者とされ、義と認められたのです。」過去において、どんな罪を犯していたとしても、救い主イエス・キリストの御力によって、御霊なる神様の働きによって、私たちは、救い出されている。これは、主なる神様の決定なので、誰も変更できないことである。もし、今、抱えている罪があるなら、解放されていない罪があるなら、主の御前に出て、正直に告白し、赦しと聖めを願い求めよう。主イエス様は、必ず、その告白を喜び、受け入れ、赦しと聖めの恵みを与えて下さる。